

令和5年1月 報道機関との定例懇談会 要旨

□ 情報提供項目

新型コロナウイルスのワクチン接種や市のイベントなどについて市長からお知らせした。

□ 記者との質疑応答

記者 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震津波対策検討委員会だが、1月の発足となったタイミングになったことや、どのようなペースでどのような内容について議論していくのか、教えていただきたい。

市 第1回の会議は、今月下旬に開催したいと考え日程を調整中である。策定概要とスケジュールを示しながら検討して行きたい。2回目以降は進捗次第で定期的開催を検討していく。内容は未定だがその都度検討する事項が増えていくと思われる。

記者 この時期立ち上げる理由があったのか。

市 津波避難計画の委託業務が12月に終了した。同じくして検討を進めるために検討委員会を設置したいと考え1月4日に検討委員会を立ち上げた。

記者 津波避難計画を作るための検討委員会という理解でよろしいか。

市 今のところはそうだが、将来ハード整備も必要となる。津波防災の基本的な計画、更新策定等策定していくための計画となっている。

記者 期限は決めないということか。

市 防災対策はすぐ終わるとは思っていない。今後長く協議や整備が必要になると考えている。

記者 資料4 こども第三の居場所とあるが、学童保育なども含まれるのか。

市 家族から離れた支援が必要な子どもの居場所である。

記者 月額120万円の補助は何年までか。

市 B&G財団は3年。4年目以降については別途検討していく。

記者 風力発電についてだが、新年度以降を含めてこれまでの取り組みや、これまでの取り組みに加えていくことなど教えていただきたい。

市 今後も継続して取り組む。現在、風況調査を継続して行っている。一番は漁業関係者の理解調整が重要である。来月、説明会を開催するが、実際どこまでやったら国の了承が出るのか、具体的な数値が示されているわけではない。漁業関係者すべての了解を得るのは、かなり難しいと思っている。みなさん反対ではないが、いろいろな意見があり、難色を示している漁業関係者もある。今後も丁寧に説明し、エリアなど変更ができるところは検討し、理解調整に努めていく。

記者 概ねいいのではないかと、というレベルに達していないということか。

市 何もないところに何かを置くことが問題という人もいる。仕事をしているところに何かの影響が出るのではないかと思う人もいる。岩手県も一緒に進めているので、水産庁とも相談をしながら説明していきたい。きっと道は開けると思っている。久慈の沿岸から

記者 何キロぐらい先を考えているのか。

市 10キロ程度先を考えているが、これから検討して行きたい。

記者 排他的経済水域に設置も可能だという報道もあるようだが。

- 市 一部で報道されているのは、技術的に可能ではないかということである。陸から離れると、経費が掛かる。業者は効率を上げて発電単価を下げる競争になる。現在、新年度中に有望な区域の指定を目指しているところである。
- 記者 難色を示しているのは、事業に対して事業に対して難色を示しているのか。補償を求めているのか。
- 市 事業に対してである。難色というよりは、不安の声である。不安の内容を具体的に上げると、音の影響で魚が逃げるとはではないか、など。実際に試験結果を説明し、取り組みを紹介。不安を一つ一つ解消する説明を行ってきている。
- 記者 理解がないと進めないという認識で良いか。
- 市 国の判断基準も明確ではない。同意できない人たちが何を同意できないかにもよると思うが、どこまでやったら次のステップに進めるのか明確ではない。具体的に規定があるわけではない。数字的に示されているものではなく、法定協議会の開催について合意が得られることと記載されている。現在は、反対ではないということになると思う。そういった意味で、何をどこまでという明確な指標がないのが現状である。経済産業省とも相談をしながら、情報交換や意見交換をしながら進めて行きたい。
- 記者 有効区域の指定は、ある程度固定されたものか。経済産業省随時か。
- 市 例年だと、3月ぐらいまでに岩手県を通じての情報提供となる。県と発電事業者が。その内容を区域指定が発表される流れになっている。
- 記者 3月に情報提供をして9月の指定をとれば、という理解でよろしいか。
- 市 国の判断として、県と次のステップに進んでいくとなれば、県が全面的に久慈市で進めていきたいと思いますと言っている。指導をいただきながら進めて行きたい。
- 記者 津波浸水想定に係ることだが、11月下旬に久慈市でも具体的な提示をして意見を出されたと思う。夏までに方向性を見出したいということだが久慈市として、実現してほしいことを改めて発言いただきたい。
- 市 県の検討会議を11月に開催した。2回程度開催予定と聞いている。県の被害想定では、市は県内で最大の被害があると予測されている。より具体的な防災対策、支援をお願いし、ハード整備に対する財源処置など、県と沿岸市町村と検討して行きたい。
- 記者 国の補助率、残り3分の1の分は示されていないという理解でよろしいか。
- 市 そのとおりである
- 記者 ハザードマップの更新の進捗状況や予定を教えてください。
- 市 予定どおり進んでいる。概ね12月いっぱいまで作業は終え、現在手直しを進めている。今月末には業者に発注する予定である。3月下旬に全戸配布できるだろうと考えている。
- 記者 避難場所の見直しをしていると思うが、それ以外で、更新版に反映される情報はありますか。
- 市 今回のハザードマップには、最大規模の洪水を記載予定である。説明会でも話をしたが、土砂災害についても盛り込むこととしているので、防災教育で使っていただきたい。マイタイムラインを記載した。いざという時に見ていただきたいと思う。
- 記者 市役所の庁舎の検討状況と今後の予定について教えてください。
- 市 ワーキングチームだが、これまで4回会議を開いている。本庁舎の現在地の建て替え、移転しての建て替えなどのメリットやデメリットについて検討していると聞いている。1月と2月にも開催し、議論を重ねる。検討した内容は、津波対策検討委員会の中で次のステップに進んでいく形になる。